

# 民俗博物館だより

Vol.41 No.1

2016. 3. 25



天理市新泉の野神まつり (イッポンギサンのオンダ)

## 目次

金魚をめぐる人とモノ —大和郡山の金魚養殖—	1
平成 27 年度キュレーターガイドサービス およびフロアサポーターサービスについて	3
みんなく春夏秋冬	6
・平成 26 年度の展示・催し	
・平成 27 年度の活動報告	

# 「金魚をめぐる人とモノ —大和郡山の金魚養殖—」

茶谷まりえ

## 1. 「金魚の町」のはじまり

日本人と金魚。そこには実に深く長い物語があります。今では、金魚は日本の夏を彩る風物詩として、またペットとしても広く親しまれていますが、そもそもの始まりは戦国時代にまでさかのぼるとされています。日本で初めて文献に金魚が登場するのは『多識篇(たしきへん)』(林羅山篇/1614年)という本草学の事典で、ここでは「古加禰宇於(こがねうを)」という名が見られます。また、金魚の飼育・繁殖などについて詳細に記した最古の書物である『金魚養玩草(きんぎよそだてぐさ)』(1748年)には、文亀2(1502)年に中国から泉州左海(現・大阪府堺市)に金魚がもたらされたこと、が記されています。ただし、これを裏付ける史料は見つかっておらず、動物学者の磯野直秀氏の研究によると、実際には元和2(1616)年に中国あるいは朝鮮半島を経由して持ち込まれたのが最初であると考えられています。

江戸時代になると、江戸や大阪などを中心に庶民のあいだでも金魚の飼育が盛んになっていきます。庶民に浸透するのはまだずっと先のことですが、浮世絵や工芸品のモチーフにも度々使用され、その美しさは一種の美術品のように多くの人々を魅了してきました。

大和郡山は「金魚の町」として広く知られていますが、柳沢吉里(1687～1745年、柳沢吉保の長男で大和郡山藩初代藩主)が享保9(1724)年に甲斐国(現・山梨県甲府市)から郡山城に移った際、家臣の横田又兵衛が観賞用に金魚を持ち込んだのが始まりであるとされています。一説では、当時の甲斐では「珊瑚樹魚」と称した観賞用の金魚が珍重されていたようですが、郡山では明治維新の廃藩以来、旧藩士たちの副業として金魚の養殖が奨励され、仲買人を介した行商によって諸国へ販売されて知名度を高めていきました。当時、郡山の藩士は経済難に苦しみながらも、農作物の販売によって賃金を得るのは武士の在るべき姿ではないと考えられていたことも金魚の養殖が副業に選ばれた大きな要因であったと考えられます。

その後、次第に本業とする旧藩士の出現や一般農家への普及などを経て、全盛期には140戸にも及ぶ数の養殖業者がいたとされています。そして、明治28年

頃からはアメリカ向けの輸出、明治30年頃からは優良な品種を東京から仕入れるなど、品種や飼育方法の改良の研究を重ねながら財政を支える産業として大きく発展していったのです。

余談ながら、数十種にのぼる金魚の品種の中でもワキン(和金・和錦)は原種に最も近いものですが、大和郡山地方において古くから飼育されていたことから、「ヤマト」とも呼ばれました。このことから大和郡山と金魚の関係の深さが伺えます。前述のような流れを受けて、甲府市と大和郡山市のあいだでは平成4(1992)年以来、姉妹都市として交流が続いています。しかし、大和郡山で金魚の養殖が盛んになった背景には環境・土地の条件が大きく関係していました。元来、奈良盆地には農業用の溜池がたくさんあり、日当たりが適当で金魚の稚魚の餌となるミジンコが発生しやすい環境にあったことなど、金魚の養殖に適した条件が整っていたのです。また、あまり温暖な地域では飼育池で他の水棲昆虫に捕食される危険性もありますが、同地の寒冷な気候は好都合だったようです。

## 2. 民俗博物館の収蔵資料から

一括りに「金魚の養殖」と言っても様々な作業があり、それぞれの場面で多様な道具が使われてきました。ここでは、3つのキーワードを通して大和郡山における養殖業の要となった作業と当館に所蔵されている約300点以上の資料の中から特徴的な道具をご紹介します。

### (1) 池とアカコスクイ

金魚の養殖には、大きく分けて「飼育用」と「産卵・孵化・畜養用」の池がありました。飼育池が産卵池を兼ねる場合も珍しくなかったようですが、その中でも、漆喰とセメントを塗り固めて造った人工池である「泉水」と「普通養池」に分かれていました。池の壁は板やコンクリート、レンガ、石などで補強されることもありましたが、粘土質な土の場合は保水効果も得られることからそのまま使用されていました。水質は比較的硬水で鉄分を多く含むものが良いとされていますが、もともと郡山の水は鉄分を多く含み、井戸水も赤褐色

に濁ることや手ぬぐいがすぐに汚れるという難点がありました。しかし、その水が金魚の養殖にはかえって好都合だったので。

金魚の餌には「アカコ」が最も適しているとされてきました。アカコとはミジンコのことで、4、5月には「アカコスクイ」と呼ばれる5メートルほどの竹竿のついた白い布製の袋を使って町の周辺部にある沼や池で採集します。また、稲作用の水田を利用して人工的に培養する場合もあり、急速に増殖させたい時には俵に入れた醤油粕を池に入れるなどの方法がとられていました。『郡山町誌』によると、ミジンコの他に、ボウフラやユリミミズが上等飼料、田螺（たにし）や魚介類は中等飼料、蚕のさなぎ、麦粉、穀類粉などは下等飼料として使用されていたようです。餌の量は多すぎても少なすぎても良くないため、適量を維持するためにも池の管理は重要な作業だったので。また、使用後のアカコスクイは庭に干して乾燥させられていましたが、何本ものアカコスクイが白い幟のように風になびく様子は当時の郡山の風物詩であり、地域の文化が生み出した特有の景観だったと言えるでしょう。



アカコをとる (秦峰一氏提供)

## (2) 選別

孵化した金魚は、約15日後に尾の発育状態を見る

1回目の選別をおこないますが、その際には鉢に入れた金魚を1匹ずつ貝杓子ですくい上げて色形や大きさの良し悪しを判断していました。この作業は女子の仕事で、『郡山町誌』には1日に1万匹の選別をおこなったと記されています。2回目は、1寸（約3cm）ほどに成長した時に大小を分けるためにおこなわれました。ただし、金魚は成育中に形の変化をおこしやすい生き物であるため、実際には選別の作業は数回くり返されていたようです。2回目の選別では、亀甲紗（きっこうしゃ）（いわゆるチュール）の四つ手網ですくい上げて生け簀に畜養し、少しずつ容器（専用の洗面器など）に移し、目の細かい手網を使ってより分けました。一方、ミジンコの選別には、目の細かい真鍮製の篩（ふるい）が用いられました。同書によると、篩には「1番」から「3番」までの種類があり、大きさごとに使い分けられていたようです。これらのことから、選別の作業には品種によって異なる良し悪しを適確に判断する基準や使用する道具を選択するノウハウが求められる作業であったということがよくわかります。

## (3) 運搬

金魚の人気の広まり、大量生産がおこなわれるようになった明治時代、輸送にも大量化・効率化が求められるようになりました。手塩にかけて育てた金魚をいかに効率よく運ぶかということは非常に重要な課題でしたが、鉄道の無い時代においては人力と道具による工夫の他ありませんでした。そこで活躍していたのが「カサネオケ」と呼ばれる専用の運搬桶です。3段、あるいは4段に重ねられた桶の一つ一つに大量の金魚が入れられました。複数の行商人がリレーのように引き継ぎながら、遠いところでは関東甲信越地方にまで販路を拡大していったとも言われています。

鉄道輸送が始まった大正・昭和期以降も重ね桶による運搬は続きました。郡山で金魚の輸出がピークを迎えた昭和初期には、酒や醤油用の四斗樽の転用、戦後の再興期にはブリキ缶の改良や様々な輸送方法の研究がおこなわれたものの、いずれも効率的な大量輸送の実現には至らなかったようです。しかしながら、昭和30年代には化学製品の発達によりポリエチレン袋や酸素注入、ドライアイスなどによる長時間輸送が可能になり、販路は世界中へ広がっていきました。金魚の運搬方法の変遷は、当時の時代背景や人やモノの動き、郡山と金魚のつながりの深さをよく表しています。

### 3. 金魚文化のこれから—受け継がれるもの—

このように、日本の金魚文化を考える上で大和郡山の存在は非常に大きく、そこで育まれてきた文化や周辺に与えた影響は計り知れません。また、直接的な養殖用具だけに限らず、金魚鉢や金魚をモチーフにした意匠があしらわれた日用品・工芸品なども多数伝わっています。これらを含めると、日本では実に多様な金魚文化が発展してきたことがわかります。現在では、日本で金魚の養殖をおこなっているのは、大きく分けて「金魚三大産地」として知られる東京都の江戸川周辺、愛知県の弥富、そして大和郡山の3ヶ所にまで減っています。国際化・ハイテク化が進む昨今であるからこそ、地域の文化をもう一度見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。

また、博物館の立場から見ると、民俗資料の多面性は大きな魅力であり課題でもあります。金魚の養殖用具だけを考えても多種多様で、また一目で見てわかる



国鉄（現 JR）郡山駅からの出荷風景（秦峰一氏提供）

ような特徴のある専用の道具ばかりではありません。つまり、例えば金魚を泳がせておくための小さな桶1つを見ても、「金魚の養殖用具」である一方では「運搬用具」であり、「漁労用具」でもある、様々な要素から成る複合体です。そのため、実物資料だけでなく、前述のような地域の歴史と時代背景、土地環境、人の知識や技術、個人が記した記録や口頭伝承、町並や景観を含む全てを一体の民俗資料として受け継いでいくことが非常に重要なのです。博物館ではそれらを包括的・多角的に捉えながら、複合的な価値を伝えるコレクション化に向けた調査・研究を続けていきたいと考えています。

#### ■参考資料

- 『金魚グラフィティ』（1986年、財団法人 柳沢文庫監修）
- 『金魚養玩草』（1748年、安達喜之）
- 『日本の金魚』（1943年、松井佳一、アルス文化叢書 37）
- 『日本の金魚 その伝統と美をさぐる』（1970年、原野農芸博物館図録・第4集）
- 『大和郡山市史』（1966年、柳沢文庫専門委員会編）
- 『大和郡山町誌』（1927年、倉本藤三郎編）
- 『養魚学各論』（1978年、川本信之編）

平成27年度

## キュレーターガイドおよび フロアサポーターサービスについて

藤本 愛

当館では、平成24年度より引き続き行っている従来の学芸員によるキュレーターガイドサービスに加え、本年度より展示解説の新しい手法として、ボランティア参加型のフロアサポーターサービスを導入した。ここでは両者の結果とあり方について報告および考察する。

まず、以前より行っている巡回型のキュレーターガイドについてだが、フロアサポーターサービスを行った10月以外の月にこれを実施した。実施時期や各団体の人数などについては、別表1にまとめている。これをみると、本年度の12月までで、ガイドを実施し

た団体は合計22団体であり、内訳は小学校10、高等学校2、大人10団体と、小学校と大人の団体が最も多かった。団体の規模は最少で9名、最大で124名であった。また、実施時期は11月が9回(9団体)と最も多く、6月が6回でこれに次ぐ。

上記のような巡回型のガイドサービスは、小学生か高齢者かなど、団体の性格によっても異なるが、展示室の収容人数や各展示室をスムーズに移動できることから考えて、20名以内が最も効果が高いと考えられる。20名を大きく超える場合は、団体の統制がとれない、展示室が狭くて身動きが取りづらい、学芸員の声が届

かない、展示物を見ることができない人が出るなど解説の効果が薄れてしまう要因が多数出てきてしまう。そのような場合、2班以上に分かれて各班に学芸員がつくような形での解説が望ましいと思われる。

このキュレーターガイドの利点は、来館者側の希望に合わせて濃淡をつけながら、とくに見てほしいところを丹念に伝えることができる点、ポイントを外さずに展示内容の概要を把握することが出来る点、時間管理がしやすい点などにある。こうした利点が最大限発揮できるのは、比較的少人数で展示のダイジェストを知りたい、時間の制約が大きい団体といえるだろう。また、どのような解説を行うかにもよるのだが、比較的多く時間を取って、最初から最後までじっくりと解説を聞いてもらうという意味では、どちらかといえば小学生よりも大人に適した解説形式かもしれない。

表1 平成27年度キュレーターガイド受付表(4月～12月)

番号	実施日時	団体名	人数	時間及び解説事項
1	4月7日(火)	奈良学園大学 奈良文化女子短期大学部 幼児教育学科	114(大学生108、引率6)	13:30～ 常設
2	4月17日(金)	奈良県立西の京高等学校 地域創生コース	43(高校生40、引率3)	9:30～
3	6月5日(金)	奈良県立法隆寺国際 高等学校	40(高校生38、引率2)	13:00～ 常設60、自由見 学60、古民家30
4	6月13日(土)	ニューワンデイ ハイキング会	15(高齢者14、一般1)	13:00～ 常設20
5	6月16日(火)	(代表者名で申込)	10(高齢者)	9:00～
6	6月18日(木)	奈良市立月ヶ瀬小学校	9(4年7、引率2)	11:15～ 常設30、自由時 間25
7	6月23日(火)	生駒市いこま寿大学 ハイキングクラブ	8(高齢者7、一般1)	11:30～ 常設30、古民家 15
8	6月26日(金)	近畿長野県人会	10(高齢者)	10:45～
9	7月24日(金)	城陽市歴史民俗資料館 友の会	30	10:00～ 常設30、古民家 30
10	9月3日(木)	関西大学森隆男研究会	16(高齢者8、大学生 5、一般3)	13:15～
11	9月17日(木)	ハートランド信貴山病院 デイケアセンター	21(高齢者15、一般6)	13:15～ 常設(稲作と昔 の暮らし)60
12	9月25日(金)	大和高田市立菅原小学校	45(3年40、引率3、障 1、介1)	12:30～ 常設30
13	9月25日(金)	橿原市立晩成小学校	55(3年51、引率4)	昼食後～
14	11月5日(木)	奈良市立朱雀小学校	55(3年48、引率1、障 3、介3)	13:30～ 常設(茶業・昔 の暮らし中心) 30、自由時間20
15	11月6日(金)	奈良市立都祁小学校	39(3・4年35、引率4)	9:50～ 常設(稲作・茶業・ 昔の暮らし)30
16	11月6日(金)	五輪会(いつわかい)	21(高齢者)	10:30～ 常設30
17	11月10日(火)	奈良市立伏見小学校	124(3年118、引率6)	9:30～ 常設30
18	11月10日(火)	香芝市立三和小学校	74(3年70、引率4)	11:00～ 常設30(昔のく らし中心)
19	11月10日(火)	奈良市立右京小学校	26(3年22、一般2、障 1、介1)	13:00～ 常設30
20	11月19日(木)	大和高田市立高田小学校	86(3年82、引率4)	9:30～ 2班に分けて常 設40
21	11月27日(金)	奈良市立二名小学校	85(3年80、引率5)	10:00～11:30 2班に分けて常 設展30、民家30
22	12月20日(日)	奈良県歩け歩け協会	69(高齢者60、一般9)	12:30～ 常設15～20

次に、今年度10月より導入したフロアサポーターサービスの概要および結果についてみてみよう。フロアサポーターサービスとは、市民ボランティアを中心とするサポーターが、展示室で来館者と交流をはかりながら展示見学のサポートを行うサービスである。

小学校団体の来館が集中し、館内が最も混雑する10月は、従来のキュレーターガイドでは行き届かない、管理しきれない場面が少なからずあった。これを補うため、今年度より当サービスを開始した。

初年度である平成27年度は大和郡山市在住の3名のボランティアにこれを依頼し、小学校を対象として、その来館の多い10月の火・木・金曜日に限定して、サポーター1名～3名体制で対応した。ボランティアの日程が合わない場合、人数が不足する場合には、当館の学芸員3名が適宜対応した。

今回、このフロアサポーターが解説を行った小学校は合計36校で、1団体の人数は学校により39名から179名の幅があった。また、最多で1日5校が来館した。以上の詳細は別表2にまとめてあるので、ご参照頂きたい。

さて、このサービスが巡回型のキュレーターガイドと大きく異なる点は、サポーターが稲作や昔のくらしの体験コーナーに待機し、そこを起点として見学者に対して解説や体験の補助、質問への回答を行うところにある。必要ならば見学者の動きに合わせてサポーターも移動するが、終始見学者について解説を行うことはしない。このような手法は、とくに館内が複数および大人数の学校で混雑する際に有効であろう。また、各々の質問に丁寧に対応してほしい、やり方を聞きながらじっくり体験をしたい小学生などにも向いている。しかし、当サービスは展示内容の概要について効率よく知りたい、展示の見所を逐次示してもらいたいと考える見学者には不向きな面があるだろう。

そして、当サービスの結果はというと、小学校の引率の先生や生徒らには、丹念に質問に答えてもらえるなどの理由からおおむね好評であった。もっとも、フロアサポーターの補助として参加してみて、問題点や今後の課題とすべきことも多くあると感じたので、その一部を以下に列挙してみる。

- ・道具を手荒く扱うほか、怪我につながる行為を行うなど、体験コーナーでの入館者の危険行為が目立つ。これにどう対応するか。
- ・上記のことと関連して、サポーターは入館者が体験中、常に目を配らなければならないので、その間体

験コーナーから一時離れて説明を行いたくても、なかなかやりづらい。

- とくに1名体制のときに、大人数もしくは複数の団体が入館すると、サポートの手が回らない。別の体験コーナーに振り分けることも出来ないで、結果、体験や質問をしたい入館者の列ができて混雑してしまう。
- 学校側が作成したワークシートのなかで、内容や答え方の難しいものがある。ボランティアの中でも、ワークシートに事前に目をとっておきたいという声があがっていた。入館に先駆けて、ワークシートを入手し、共有・検討する必要があるだろう。
- サポーター同士が情報や解説に対する考え方を共有しきれてない部分がある。具体的には、ワークシートのヒントや答えをどこまで見学者に教えるかがサポーターによって異なるところがあった。これには、サポーターへの研修なども含めて、事前に入念な打ち合わせが必要であると考えられる。
- フロアサポーターは、学芸員が主導するキュレーターガイドと異なり、見学者の自主性にまかせる場面が多いので、具体的に館内をどう回ればよいか、とくに小学校の引率の先生に戸惑いを生む場合がある。このように、課題を挙げていくと枚挙にいとまがない。こうした種々の課題に対する改善策をこれから探っていくことはもちろんのこと、サポーターの拡充や、活動内容に民具整理も加えて展示解説の際に参考とするなど、今後のフロアサポーターのあり方を引き続き検討していく必要がある。

以上、キュレーターガイドとフロアサポーターサービス両方についてみてきたわけだが、それぞれのサービスの精度を高めていくことを目指すとともに、時期や団体の性格によって、いずれのサービスを選択する



フロアサポーター（常設展「昔のくらし」コーナー）

か、双方の利点と欠点をよく吟味した上で考えていくことが今後重要であると思われる。

表2 平成27年度フロアサポーター受付表（10月）

番号	実施日時	団体名	人数
1	10月1日(木)	橿原市立畷傍北小学校	50 (3年47、引率3)
2	10月1日(木)	奈良市立神功小学校	47 (3年42、引率3、障1、介1)
3	10月2日(金)	橿原市立今井小学校	39 (3年36、引率3)
4	10月2日(金)	奈良市立佐保台小学校	46 (3・4年42、引率4)
5	10月2日(金)	奈良市立あやめ池小学校	89 (3年83、引率6)
6	10月2日(金)	奈良市立伏見南小学校	61 (3年58、引率3)
7	10月2日(金)	斑鳩町立斑鳩東小学校	92 (3年87、引率5)
8	10月6日(火)	田原本町立平野小学校	68 (3年64、引率4)
9	10月8日(木)	香芝市立下田小学校	134 (3年125、引率7、障1、介1)
10	10月8日(木)	生駒市立生駒小学校	103 (3年98、引率5)
11	10月8日(木)	奈良市立西大寺北小学校	107 (3年101、引率4、障1、介1)
12	10月8日(木)	宇陀市立大宇陀小学校	39 (3年35、引率4)
13	10月9日(金)	天理市立二階堂小学校	61 (3年56、引率5)
14	10月9日(金)	奈良市立済美小学校	77 (3年71、引率4、障1、介1)
15	10月9日(金)	奈良市立平城小学校	125 (3年117、引率6、障1、介1)
16	10月9日(金)	橿原市立耳成南小学校	114 (3年109、引率5)
17	10月15日(木)	田原本町立南小学校	69 (3年66、引率3)
18	10月15日(木)	広陵町立広陵北小学校	95 (3年89、引率6)
19	10月15日(木)	広陵町立広陵西小学校	118 (3年111、引率4、障2、介1)
20	10月16日(金)	香芝市立真美ヶ丘西小学校	49 (3年46、引率3)
21	10月16日(金)	大淀町立大淀希望ヶ丘小学校	61 (3年54、引率3、障2、介2)
22	10月16日(金)	天理市立井戸堂小学校	91 (3・4年86、引率5)
23	10月16日(金)	香芝市立真美ヶ丘東小学校	97 (3年90、引率5、障1、介1)
24	10月16日(金)	王寺町立王寺小学校	108 (3年103、引率5)
25	10月20日(火)	生駒市立生駒東小学校	127 (3年122、引率5)
26	10月20日(火)	奈良県立西和養護学校	60 (障42、介18)
27	10月22日(木)	生駒市立俣口小学校	96 (3年95、引率1)
28	10月22日(木)	広陵町立真美ヶ丘第二小学校	110 (3年105、引率5)
29	10月22日(木)	平群町立平群小学校	61 (3年55、引率6)
30	10月23日(金)	生駒市立生駒台小学校	179 (3年173、引率6)
31	10月23日(金)	橿原市立真菅小学校	131 (3年125、引率6)
32	10月27日(火)	田原本町立田原本小学校	103 (3年96、引率3、障2、介2)
33	10月30日(金)	奈良市立青和小学校	83 (3年78、引率5)
34	10月30日(金)	大和高田市立片塩小学校	65 (3年60、引率5)
35	10月30日(金)	奈良学園小学校	84 (3年79、引率5)
36	10月30日(金)	広陵町立真美ヶ丘第一小学校	77 (3年72、引率5)

## みんなく春夏秋冬

### 平成26年度の展示・催しなど

#### 【展示】

##### 1. 企画展

・4月26日(土)～6月15日(日)

##### 春季企画展「なに?なぜ?昔の道具を知ろう」

これは何に使うの?なぜこんな形をしているの?など素朴な疑問から、昔の道具の見どころや道具に込められた知恵や工夫について紹介。(2,654名)

・7月12日(土)～9月7日(日)

##### 夏季企画展「金魚と暮らす」

金魚の一大産地として養殖が盛んな大和郡山市の金魚を、養殖道具を中心に、金魚の生産の様子や金魚と人々との関わりについて展示。(2,141名)



夏季企画展「金魚と暮らす」展示風景

・10月4日(土)～12月14日(日)

##### 秋季企画展「やまと伝統のものづくりとわざ」

大和の地に今日まで受け継がれている様々なものづくりの技、それらが育まれた背景、先人の努力・工夫について考える。(6,510名)

・2月14日(土)～3月29日(日)

##### 「ひなまつり 一人形たちの宴」

子どもの成長と幸せを祈る桃の節供(三月節供)の風習、ひなまつりを紹介し、当館所蔵の雛人形、郷土玩具等を一堂に展示する。この季節恒例の展示。(3,831名)

##### 2. コーナー展

展示室通路の一角を利用し、常設展・企画展を補完

する内容や季節に因んだテーマ、当館が取り組んでいる活動や新収蔵品の紹介などを行うミニ展示。

・5月3日(土・祝)～6月29日(日)

##### 「まつりの用具」

新収蔵品紹介。民俗写真家 田中真人氏が各地で調査・収集した祭礼、年中行事に関する有形資料を展示。

・8月2日(土)～9月7日(日)

##### 「戦時下の暮らし」

昭和10年代～20年代に使用された生活用具から、戦中・戦後の暮らしを知る。

・1月6日(火)～3月1日(日)

##### 「山の神への供え物」

11月ないしは正月7日に行われる山の神まつりについて、当館のコレクションより紹介。

・3月14日(土)～5月10日(日)

##### 「おべんとうを持って」

行楽の季節にちなみ、メンパや行李弁当など普段使っているもの、手提げ重などハレの日のお弁当、水筒のいろいろ、携帯用酒燗器などを展示。

3. 玄関ホール展(地域・市民との連携展示)

当館玄関ホールを活用し、地域・市民と連携した展示を開催。

・9月14日(日)～28日(日)

##### 「みんなくひょうたん展」

(協力:みんなくひょうたん会)

古くから器や置物として愛用されているひょうたんについて親しみ、楽しんでいただけるよう、会員が製作した様々な作品を展示。

関連催しとして「ひょうたん工作教室」(9月21日)を開催。

・10月25日(土)～12月7日(日)

##### 写真展「第4回私がつらえた大和の民俗」

県内の写真家10名が、それぞれこれが大和の民俗ではないかと考えるテーマで3点ずつ作品を展示。本年度の全体テーマは「食」。

関連催しとして出品者が自身の作品について語る写真家トーク「食を撮る」(11月2日)を開催。

## 【催し】

## 1. 講演会

- ・ 5月18日(日)

## 国際博物館の日記念講演会「奈良県の民俗」

講師：帝塚山大学名誉教授 赤田光男氏  
宗教民俗を歴史的な視点から捉え、長年研究に取り組んでこられた赤田光男氏による奈良県の民俗のエッセンス。(45名)

- ・ 6月8日(日)

## 講演会「まつりの用具を語る」

講師：民俗写真家 田中真人氏  
奈良県内の民俗を求めて各地をくまなく歩き、再訪し、丹念に会話を重ね、記録してきた田中真人氏の視点からみた大和のまつり。(37名)

## 2. 体験学習

- ・ 7月26日(土)

## 夏休み子ども体験学習

## 「もじりあみのコースターをつくろう」

講師：帝塚山大学講師 澤田絹子氏  
縄文時代から行われている「もじり編み」という技法を使い、身近にある材料でコースターづくりに挑戦。(小学生～中学生対象 8名)

## 3. 民家の活用 地域・市民との連携

- ・ 5月11日(日)、7月13日(日)、10月12日(日)

## 「古民家で聞く おはなしの散歩道」①～③

(協力：朗読の会 陽だまり)

古民家で昔のくらしの雰囲気を感じつつお聞きいただく民話や読み語りの世界。それぞれ開催する季節等にあわせた内容で3回開催。

- ・ 8月2日(土)

## おはなし会「語り継ごう、戦争」

(協力：朗読の会 陽だまり)

コーナー展「戦時下のくらし」関連催し。戦時下の子どもについてのお話は、親子での参加者から好評をいただいた。

- ・ 8月30日(土)

## 映画「茜色の約束」上映会

地元大和郡山市を舞台とし、金魚が重要なファクターとなっている映画として話題となったもの。

上映後、塩崎祥平監督(大和郡山市出身)のトークショーを開催。

- ・ 8月16日(土)～17日(日)

## 「折り紙で金魚を折ろう」

(協力：大和郡山市観光ボランティアガイドクラブ)  
夏季企画展「金魚と暮らす」の関連催し。ボランティアガイドクラブの会員が考案したオリジナルの金魚の折り紙を来館者とともに楽しむ。

- ・ 8月31日(日)

## 「金魚すくい体験」

(協力：こちくや「金魚すくい道場」)

夏季企画展「金魚と暮らす」への関心を高めていただく関連催しとして開催。

- ・ 2月14日(土)～3月8日(日)

## 「古民家でひな祭り」

博物館内で開催の「ひなまつり」展のイベントとして開催。県立大和民俗公園内の重要文化財旧白井家住宅に昭和50年代のお雛様を展示公開。併せてNPO法人やまと新発見の会たけのこ会の数田照澄氏の協力により竹を素材にした作品を展示。

- ・ 3月8日(日)

## 「早春おはなし会ーおひなさまの前でー」

(協力：朗読の会 陽だまり)

旧白井家住宅でおまつりするおひな様とともに、季節にちなんだお話を楽しむ。

## 4. 機織りの実演

(協力：当館奈良曝研究会 澤田絹子氏)

平成24年秋から、常設展示室「昔のくらし」コーナー体験エリアで、機織り作業の実演等を実施。奈良県が、かつて「奈良晒」、「大和緋」で全国的に名を知られた織物産地であった歴史を知っていただき、その生産を支えた「大和機(やまとばた)」と称される特色ある織機が存在を知っていただく。

毎月2回(原則第4木曜日/第4日曜日)

10時30分～15時30分

※ 但し都合により変更することあり



5. その他

・ 8月31日(日)

学芸員トーク「大和郡山の金魚」

担当：学芸員 吉本由梨香

夏季企画展(「金魚と暮らす」)展示に関わる調査とその成果について。

・ 3月29日(日)

学芸員トーク「麻布のこと」

担当：主任学芸員 横山浩子

暮らしの基本繊維として最も長い歴史を有するアサのこと、また地域産業史として重要な奈良晒について。

・ 1月25日(日)

映像上映会「冬のくらしとまつり」

奈良県教育委員会が企画・制作した『大和路の文化財』シリーズより冬季に因んだ2作品を上映。

- ①「鬼の文化」(平成8年制作/上映時間20分)
- ②「山の神まつり」(平成3年制作/上映時間20分)

【大和民俗公園】

・ 11月15日(土)～16日(日)

第1回 なら民博ふるさとフェスタ

大和民俗公園の魅力を広く知っていただく機会として、博物館や移築復原民家もあわせた総合的な催しを開催。獅子神楽、千本杵による餅つき等の民俗行事や握り墨づくり、奈良晒の紡織技術実演等の郷土が誇る伝統文化にふれていただいた。

〈実演等の協力者・団体等〉

錦光園、澤田絹子氏、田原地区伝統芸能保存会、月ヶ瀬奈良晒保存会、奈良市辰市区有志、室生神楽保存会、桃俣獅子舞保存会、大和郡山市立郡山中学校、大和郡山市立郡山西中学校、大和の国芸能まつり実行委員会



第1回なら民博ふるさとフェスタ  
(大和の国芸能まつり実行委員会)

この他、県内近隣店舗より飲食・物販ブースへの出店協力をいただいた。

(総入園者数 4,886 人 博物館来館者数 1,269 人)

・平成26年度 梅の木ファミリー第4期会員募集

平成27年度の活動報告

【展示】

1. 企画展

・ 5月2日(土)～6月28日(日)

昔のくらし関連展「移動ーヒト・モノ・カミー」

くらしの中の様々な場面でみられる「移動」という行為に着目、目的に応じた手段、用具から昔の生活と先人の知恵や工夫を紹介。(2,597名)

・ 7月25日(土)～9月6日(日)

昔のくらし関連展「洗う」

風呂や洗濯等身近な「洗う」から、年中行事や信仰の中の「洗う」まで、様々な場面における「洗う」文化について紹介。(1,658名)

・ 10月3日(土)～11月29日(日)

秋季企画展「身につけるもの

ー民俗資料にみる昔の衣生活ー

和服が暮らしに生きていた時代の衣服、装身具、衣生活にまつわる伝統的な慣習、様々な知恵や工夫、当時の人々のものの見方や考え方をうかがう。(5,643名)

・ 2月20日(土)～4月3日(日)

「ひなまつりー人形たちの宴ー」

桃の節供(三月節供)の時期の恒例展。当館所蔵の雛人形や郷土玩具等を展示。

2. コーナー展

・ 5月30日(土)～6月28日(日)

「田植えの季節」

田植え仕事、この時期のくらし・まつりを紹介

・ 8月1日(土)～9月6日(日)

「戦時下のくらし」

戦時体制下に使用された生活資料を展示。

- ・ 11月7日(土)～15日(日)  
**漫画『すくってごらん』大谷紀子氏複製原画展**  
 11月14日大谷紀子氏トークショーとサイン会  
 (ふるさとフェスタ)と連動して実施。  
 (協力:株式会社講談社 BE・LOVE 編集部、おみやげ処こちくや)

- ・ 12月5日(土)～1月31日(日)  
**「はかる」**  
 日本人の「暮らしの感覚」から生まれた「はかる」  
 を幅広く紹介。

- ・ 2月6日(土)～3月13日(日)  
**「わらと暮らし」**  
 暮らしの中で使われているわら製品とわら細工用具  
 を紹介。

- ・ 3月19日(土)～4月24日(日)  
**「裁縫ひな型」**  
 明治～昭和初期に女子学生が裁縫の授業で製作した  
 作品を展示。

### 3. 玄関ホール展 (地域・市民との連携展示)

- ・ 8月8日(土)～16日(日)  
**漫画『すくってごらん』大谷紀子氏複製原画展**  
 金魚の町大和郡山を舞台としたコミック「すくって  
 ごらん」の複製原画と描かれた風景を写真で紹介。  
 (協力:株式会社講談社 BE・LOVE 編集部、おみやげ処こちくや)



「すくってごらん」大谷紀子氏複製原画展

- ・ 9月6日(日)～27日(日)  
**みんなくひょうたん展**  
 (協力:みんなくひょうたん会)  
 会員の作品展。関連催しとして「ひょうたん工作教室」  
 (9月20日)を開催。

- ・ 10月24日(土)～12月6日(日)  
**写真展「第5回私がとらえた大和の民俗」**  
 全体テーマは「衣」。11人が3点ずつ作品を展示。  
 関連催しとして写真家トーク「衣を撮る」(10月  
 25日)を開催。

### 4. サテライト展示

- ・ 3月2日(水)～22日(火)  
**写真展 in 奈良町資料館「私がとらえた大和の民俗」**  
 当館玄関ホールで開催した写真展「第5回私がとら  
 えた大和の民俗」を奈良町資料館(奈良市西新屋町)  
 で開催。

## 【催し】

### 1. 講演会

- ・ 5月17日(日)  
**国際博物館の日記念講演会「福神と招福」**  
 講師:帝塚山大学教授 源城政好氏  
 人々に福をもたらす「福神」の代表的存在である恵  
 比須、大黒、毘沙門等に対する信仰の展開を通して  
 人々が「福」を如何に捉えていたかを考える。(32名)



国際博物館の日記念講演会「福神と招福」

### 2. ワークショップ・体験学習

- ・ 7月26日(日)、8月8日(土)  
**ワークショップ「洗濯板を使ってみよう  
 &アートソーブ作り」**  
 昔のくらし関連展②「洗う」関連催し(29名)
- ・ 8月14日(金)～15日(土)  
**体験コーナー「伸子張り体験&布くらべ」**  
 昔のくらし関連展「洗う」の関連催し(30名)

- ・ 8月23日(日)

**夏休み親子体験学習「竹で作って遊ぼう」(45名)**

講師：NPO 法人やまと新発見の会 たけのこ会  
親子・家族で協力しミンミンゼミ、竹馬など、竹の玩具を作り、実際に使ってみる。



夏休み親子体験学習「竹で作って遊ぼう」

**3. 民家の活用 地域・市民との連携**

- ・ 5月10日(日)、10月11日(日)

**「古民家で聞くおはなしの散歩道」①・②**

(協力：朗読の会 陽だまり)

古民家で昔の暮らしの雰囲気を感じつつ聞く民話や読み語りの世界。2回開催。(53名)

- ・ 8月2日(日)

**おはなし会「語り継ごう、戦争」**

(協力：朗読の会 陽だまり)

コーナー展「戦時下の暮らし」関連催し聴講者から戦時中の体験談も。(23名)

- ・ 1月30日(土)

**なら民博 新年もちつき体験**

(協力：農せんと)

博物館前の広場でお餅つきを体験。搗いたお餅を味わう催し。(104名)

- ・ 2月13日(土)～3月6日(日)

**「古民家でひな祭り」**

博物館内で開催の「ひなまつり」展と連動。たけのこ工房の藪田照澄氏協力による竹の造形作品をあわせて展示。

- ・ 3月6日(日)

**「早春おはなし会 おひなさまの前でー」**

(協力：朗読の会 陽だまり)

**4. 機織りの実演**

(協力：当館奈良曝研究会 澤田絹子氏)

平成24年度より継続実施。大和機による苧麻布製織実演。

**5. その他**

- ・ 6月7日(日)

**映像上映会「当屋・宮座」**

奈良県教育委員会が企画・制作した『大和路の文化財』シリーズより2作品(各上映時間：20分)を上映。

①「神を祀る家-当屋-」(平成2年制作)

②「長谷寺周辺の祭礼と宮座」(平成10年制作)

(16名)

- ・ 8月14日(金)・15日(土)

**「金魚すくい体験」**

玄関ホール展(「すくってごらん」大谷紀子氏複製原画展)会期中の関連催しとして実施。(184名)

**【学校・博物館等への協力】**

**1. 展示解説・出張授業等**

- ・ 4月7日(火)

奈良文化女子短期大学部幼児教育学科(見学)93名

- ・ 4月17日(金)

奈良県立西の京高等学校「地域創生コース」(見学)40名

- ・ 5月9日(土)

奈良文化女子短期大学部幼児教育学科

「人の一生-民俗のまなざし-」(出張講義)

- ・ 5月10日(日)

奈良大学通信教育部(博物館見学実習)70名

- ・ 6月5日(金)

奈良県立法隆寺国際高等学校「歴史文化科」(見学)42名

- ・ 6月13日(土)

帝塚山大学文学部文化創造学科(臨地講座)25名

- ・ 9月3日(木)

関西大学(博物館・民家見学、実測・撮影等研修)20名

- ・ 11月11日(水)～13日(金)

奈良市立富雄南中学校(職業体験学習)2名

- ・ 3月12日(土)

葛城市歴史博物館「葛城学へのいざない」(講師)

\*キュレーターガイドサービス、フロアサポーターの実績については、「平成27年度キュレーターガイドサービスおよびフロアサポーターサービスについて」参照。

2. 資料の特別閲覧・貸出・写真提供・撮影など
- ・奈良晒関係資料3点 NHK 奈良放送局 (撮影)  
ならなび「春日野だより」～奈良晒～で放映
  - ・奈良市内民俗写真25点 樹林舎 (写真提供)  
『写真アルバム 奈良市の昭和』掲載
  - ・農具3点 (馬鋤、水車、千歯扱き) 株式会社 JBN (転載)  
JA 長野中央会 HP 「いいJA ん! 信州」掲載
  - ・DVD「大和の民俗」シリーズ10巻 奈良県観光プロ  
モーション課 (貸出)  
業務参考資料
  - ・避難救助用川船1点 (撮影、実測、論文掲載)
  - ・「善女龍王像」(楽田寺所蔵) 写真原板1点 (掲載)  
龍谷大学龍谷ミュージアム  
サントリー美術館『水 神秘のかたち』展図録掲載
  - ・大和緋関係資料3点 (生地、織機、染板) ハースト  
婦人画報社「美しいキモノ」編集部 (写真提供)  
「近畿地方の染織品紀行」〈『美しいキモノ』2015  
年冬号〉(掲載)
  - ・綿くり器1点 農事組合法人さ・さとやま組合 (貸出)  
小学校での綿くり体験授業教材
  - ・旧岩本家住宅、旧木村家住宅の便所等 (撮影)、  
大和高田市曾大根「四季農耕図」絵馬 (写真提供)  
奈良テレビ放送報道部  
奈良テレビニュース (ゆうドキッ) 内で放映
  - ・綿くり器2点 大和郡山市立矢田南小学校 (貸出)  
1年生生活科授業の参考資料
  - ・戦時生活資料10点 (防空頭巾等) 明日香村社会福祉  
協議会 明日香村遺族会 (貸出)  
戦没者追悼式会場での展示
  - ・戦時生活資料7点 (防空頭巾等) 明日香村人権教育  
推進委員会 (貸出)  
人権学習講座の教材
  - ・干支「申」関係資料5点 (絵馬、牛腹掛、出雲人形)  
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館 (貸出)  
平成27年度特別陳列「十二支の考古学—申—」
  - ・鍛冶屋関係資料23点 葛城市歴史博物館 (貸出)  
平成27年度冬季企画展「村の鍛冶屋」展示
  - ・「くらしを支えた手わざ—鍛冶屋・檜木屋—」掲載  
イラスト 葛城市歴史博物館 (転載)  
「村の鍛冶屋」展の展示パネル作成
  - ・昔の農作業風景写真6点 生駒ふるさとミュージア  
ム (写真提供)  
平成27年度冬季企画「生駒山が見た昔のくらし  
—お米づくりの道具たち—」展示パネル作成

- ・百人一首かるた一組 奈良テレビ放送 (撮影)  
奈良テレビニュース (ゆうドキッ!) せんとくん通  
信「万葉歌人～山部赤人～」で放映
- ・菅笠、スエみの、雪ぐつ各1点 奈良市立東登美ヶ  
丘小学校 (貸出)  
国語授業の参考資料
- ・綿くり器1点 農事組合法人さ・さとやま組合 (特  
別閲覧)  
綿くり体験の参考のため
- ・糸車1点 大和郡山市立矢田小学校 (貸出)  
1年生国語授業の参考資料
- ・糸車1点 奈良学園小学校 (貸出)  
1年生国語授業の参考資料

## 【大和民俗公園】

- ・11月14日(土)～15日(日)  
第2回なら民博ふるさとフェスタ  
(総入園者数3,149名、博物館来館者1,084名)  
民俗公園(民家園を含む)会場では、吹奏楽、和  
太鼓演奏、ジャグリングなどのパフォーマンス、  
大谷紀子氏トークショー&サイン会、古民家カフ  
ェ、木の実や竹、木材等の自然素材とふれあうワ  
ークショップ等を開催。  
民俗博物館会場では、奈良晒の紡織技術の実演・  
体験・作品展示、木綿の紡織体験を実施。  
(雨天のため民俗芸能など一部催しは中止)

### 奈良県立民俗博物館だより Vol.41 No.1(通巻106・107合併号)

2016(平成28)年3月25日発行  
編集発行 奈良県立民俗博物館  
〒639-1058 大和郡山市矢田町545番地  
TEL 0743-53-3171/FAX 0743-53-3173  
印刷 植原美術印刷株式会社  
〒631-0825 奈良市西大寺芝町2丁目2089

### 奈良県立民俗博物館

開館時間：午前9時～午後5時 (入館受付は4時30分まで)  
※ 民俗公園内の民家集落は午後4時まで  
休館日：月曜日 (月曜が祝日、振替休日の時は次の平日)  
年末年始 (12月28日～1月4日)  
観覧料：一般200円 大学生150円  
※20名以上団体割引あり  
※65才以上、障がい者と付添1名は無料  
※小・中・高生は無料  
交通案内：近鉄郡山駅→奈良交通バス①のりば→「矢田東山」下車  
→北へ徒歩10分/公園・博物館利用者専用駐車場あり